

相手や目的を意識し、情報手段や表現技法を考える力を育む授業づくり

神奈川県川崎市立新城小学校 総括教諭 片岡 義順

小学校6年 外国語活動
「メディアタイムズ」

メディア
タイムズ

【活用回・番組紹介】「心を動かす！ドラマの演出」
メディアのあり方について仲間と話し合いながらメディア・リテラシーを身につけることをねらいとしています。番組内のドキュメントパートとドラマパートを通してメディアを使いこなす心を育てることができます。

【授業デザイン】 We are good friends.

1 相手意識をもつ

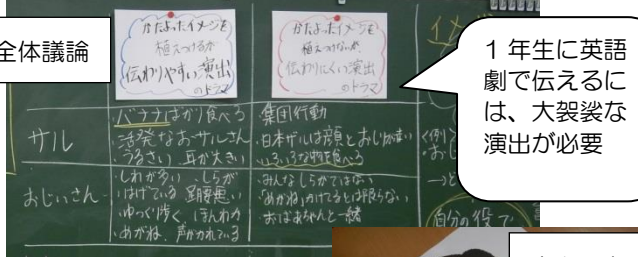
- 桃太郎を英語劇で行う (Hi, friends! 2 LESSON7)
- 劇は春先からお世話をしてきた1年生に見せる
- グループ (9名~10名) ごとに劇を行う

2 番組視聴

劇の演出と演出が与えるイメージについて考える
「1年生に伝わるようにするために、どのような演出の劇がよいのか」を考えるという問題を設定して、「第3回~心を動かす！ドラマの演出~」を視聴。

3 話し合いをもとに個で考える

全体議論



1年生に英語劇で伝えるには、大袈裟な演出が必要

自力思考

自分の役 (おじいちゃん役) をどのように演じたら、1年生におじいちゃんということが伝わるかな?



4 対話を通して演出の効果を検討



グループで集まり、個々に考えた演出のイメージを紹介しあい、劇を作り上げていく。「1年生にとって伝わりやすいか」という共通の認識をもって学習に取り組んでいった。

【本学級の学習スタイルと実態と関連したねらい】

- A 学びを意味づけてから行動するのが得意 34.5%
 - B 行動しながら学びを意味づけるのが得意 34.5%
 - C 時間をかけて学びを意味づけるのが得意 31%
- グループ活動の中でまとめようとしていたり、計画を立てて進めていこうとしていたり、人の為になるよう行動しようとする子が少ない傾向がある。活動の中に必要感や相手意識を明確にもつことができるような授業設計を心がけた。

【今回の実践における番組効果】

- 新鮮な経験を与えて、豊かに想像力や学習への興味を育てる
- 鑑賞や批判のためのすぐれた資料を提供する。
- 日常的な事象に対して、新たな見方や感覚を与えて、課題を発見する。

【深い学びに関する教師の工夫】

劇という表現方法は、演出によって受け手へ与えるイメージが変わることを理解する。そのうえで、1年生に劇で伝えるには、どのような演出がよいのか考えを出し合い、具体的に劇を作り上げていく過程を大事にしていく。

○視聴後の展開の工夫

番組は二項対立という形で話し合いの視点を提示している。そのどちらかを選ぶことを目的とするのではなく、その視点を切り口にして、劇の演出と与えるイメージについて考えることができるようにする。こうした話し合いの場を設定するうえで、メディアタイムズ視聴は有効であった。

○自力思考から対話へという学習の流れ

対話をする前に、一人一人が自分の与えられた役 (話し合いで決めた役) をどのように演じるのか、演出のイメージを明確にした。1年生に伝わるようにするためには、どのような演出 (セリフ・動作・小道具) が有効なのかという共通の課題意識をもって話し合いへと進むことができた。

○何のために学んでいるのかが明確な場の設定

今回の学習では、英語で桃太郎の劇を行うという活動を行った。テキストに出ているから劇に取り組むというのではなく、春からお世話をしている1年生との交流の場として、今回の劇の発表を位置付けたことで、子どもたちは明確な目的意識と相手意識をもつことができていた。

【成果と課題】

英語劇を1年生に発表するうえで、1年生が理解可能なのかどうかを考えて、劇の演出に生かすことができた。番組が劇の演出によって与えるイメージが異なってくるという理解を助けるだけでなく、発信者として主体的に学習に向かうことができるような働きかけをしていた。明確な相手意識や目的意識をもつことで、対話の必要感や練習での工夫が生まれていったことも今回の成果といえる。「メディアタイムズ」活用にあたっては、教師側が活用意図や活用場面をある程度明確にもっていることが求められる。今後も実践の蓄積をしていきたい。